

塔城新聞

行發日一十三月八
（刊休日翌日祭慶日）

友部株式会社

山岡が續けた
『文部省は元來が僕の畑だ』
「人の世は、樂には渡れぬ
たのしいお夢が、見られ
るおひき」
母さんお膝は、坊やおの
おひきかごみたいに、ゆす
ゆるおひき
母さんお膝は、坊やおの
おひきかごみたいに、ゆす
ゆるおひき
母さんお膝は、坊やおの
おひきかごみたいに、ゆす
ゆるおひき

市制實施と農村の發展

市制實施と農村の發展

市制實施と農村の發展
市制實施は、農村の發展に對する一つの重要な問題である。市制實施の目的は、農村の發展を促進し、農村の生活水準を向上させることに在る。市制實施により、農村の生活水準は向上し、農村の發展は促進される。市制實施は、農村の發展に對する一つの重要な問題である。市制實施の目的は、農村の發展を促進し、農村の生活水準を向上させることに在る。市制實施により、農村の生活水準は向上し、農村の發展は促進される。

母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき

母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき

母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき

母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき

母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき

母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき
母さんお膝は、坊やおのおひきかごみたいに、ゆすゆるおひき

詩の批評に就て

詩の批評に就て

詩の批評に就て
詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。

詩の批評に就て
詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。

詩の批評に就て
詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。

詩の批評に就て
詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。

詩の批評に就て
詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。

詩の批評に就て
詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。



詩の批評に就て
詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。

詩の批評に就て
詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。

詩の批評に就て
詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。詩の批評は、詩の藝術を向上させるための重要な手段である。詩の批評により、詩人の創作意欲は刺激され、詩の藝術は向上する。

鈴木醫院
眼科
耳鼻咽喉科専門
鈴木 正男
鈴木 喜政

新鯉魚節
美味で滋養分豊富
出来マシタ
外務社員募集

片寄製作店
製作販賣
片寄 小彌太

和洋家具
製作販賣
小田員募集

照山株式会社支店
主任常盤光威
電話 四一六番

博盛堂
神佛祭具一式
造花製造販賣

平牛乳舎
第一貨品
番八六二話電

阿康藥局
注射の様に
効能ある
胃腸薬

大阿内整形外科醫院
大阿内 一郎
電話 五八八

光線科
整形外科
大阿内 一郎

募集盆歌の價值
近來各所に盆歌の募集
集が行はれた。著しく陳腐
非に非に早獲到底教養ある
青年男女の高唱に過ぎざる
所謂盆歌の舊形式から脱
して、時代に即した清新活
刺の歌詞を得んとするは、
而も盆踊り舞臺などの機運
が急速に醸成されつつある
が急進に相成りつつある
昨今に極めて相成りつつある
と云ふべく、斯くして創作
される比較的優秀な歌詞は
漸次劣低級なものを永遠
に驅逐するに至るであらう
が、然らば盆歌の精華は果
して什麼處に存するか、蓋
しては盆歌の精華は果
しては盆歌の精華は果
しては盆歌の精華は果

女性乍ら第一線へ
空を護りの強い叫び

當夜の片倉と新田町連
来るべき防空演習は期日の切迫と共に漸く一般の
關心を深めつつあるが、平糶救災組合では七十名
の紅組連によつて特設防護隊を組織し防空思想を
強固した標幟鮮やかな自衛隊甲斐々々しく大に非常
時女性の意氣を昂揚すると云ふが片倉警備隊系會
社でも數百名により同様な活動を試みる

植田町防
九月十二日午前八時から同町
日舉行する防空演習につき、盆歌、防護隊結成其他に關
護團結成
十二の兩小學校に各種團體首腦者
日舉行する防空演習につき、盆歌、防護隊結成其他に關
護團結成
十二の兩小學校に各種團體首腦者
日舉行する防空演習につき、盆歌、防護隊結成其他に關
護團結成
十二の兩小學校に各種團體首腦者

日赤救護所
日本赤
十字社福島支部では防空演
習に際し平第三小學校に臨
時救護所(醫員、支那書記
各一名、看護婦二名)を設
各一名、看護婦二名)を設
各一名、看護婦二名)を設
各一名、看護婦二名)を設

僕等の藪は上乘だ!
箕輪第一校生の喜び
箕輪第一小學校の高級生約
三十名は今夏休を利用して
校内で秋遊園會に洋たくに
なつてゐたが、努力酬ひら
れて好成绩で上張したので
は九月早々藪の品評會を催す
事となつた

高値四圓六
十五日
昨日の四市場
高値四・六五 安値四・
三〇 買値四・五二錢
掛目三五

植田町農會
植田町
生産品供給 農會で
は九月、毎週水曜日に植
田町農會の遊藝製造並に下
田町農會の遊藝製造並に下
田町農會の遊藝製造並に下
田町農會の遊藝製造並に下

石城の水の傳説
磐城民俗研究同志會
昔から脱れようとする水を
求めしめた。家臣は主人に
大同年間この寺建立の折地
を、掘る時用ひた鐵は出ぬ
と、掘る時用ひた鐵は出ぬ
と、掘る時用ひた鐵は出ぬ
と、掘る時用ひた鐵は出ぬ

吊り下げて殴る
人絹工事が生んだ
身の毛のよだつ私刑事件
永戸村渡戸地内に去月初の
頃から親子連れらしい鹿毛
鹿毛三頭がツロツロしてあ
るのを村人が発見した。
判らないので目下同村區長
判らないので目下同村區長
判らないので目下同村區長
判らないので目下同村區長

豊漁の大旗を翻し
遠洋漁船續々歸る!
純益平均一萬二千兩也
過般來遠くカムチャツカ沖合に出漁中
だつた郡下各漁船の遠洋漁船は目下「大
漁旗」を翻して續々歸港してゐるので
各漁船には何れも歡喜が湧いて居る
大小十七艘出漁した江名、中の作兩
港の漁船も平均一萬二千兩程度を得
江名萬九、中の作第二東丸、安榮丸等は何れ
も漁獲三萬餘と云ふからこの純益は大きいら

赤井の晝火事
きのふ三棟を焼く
三十日午前十一時半頃赤井村高萩川物置
から晝火、母家、物置、風呂場の三棟が焼けて一時
頃鐘火した、損害二百五十圓、原因は同居人増田
西松(四)が餅搗きした取灰の不始末から

一生の不覺だ
高飛びに失敗して
捕れた青年泥濘語
以上三年の刑を言渡され
て盛岡少年刑務所を今年
八日同僚所世所所から

三井タケシ
電話六八五番
(小名郡調製所)
日五、〇八、月山後五、三、八
日六、二、四、月山後四、二、九
日六、二、四、月山後四、二、九
日六、二、四、月山後四、二、九

残暑御見舞
山崎 登
山崎 欽次
山崎 金成
山崎 鈴木
山崎 佐忠
山崎 竹松
山崎 市造
山崎 重三郎
山崎 山藏之助
山崎 山喜一郎
山崎 邊國之助
山崎 渡邊
山崎 赤津
山崎 平男

不起訴處分
下手人兩名は喚問
山田信用組合長 下山田喜一郎
植田町助役 渡邊國之助
植田町収入役 村松義節
植田町農會技手 赤津平男

酒店員入用
二名(自轉車に乗る)
二名(自轉車に乗る)
二名(自轉車に乗る)
二名(自轉車に乗る)

天候
小名
小名
小名
小名

夜霧にぬれて!
植田盆唄決定
昨夜橋上から發表
植田町青年團では地元紅組連の音頭で踊つて
從來の盆唄が歌はる
植田町 牧野 輝英四、菊多浦から 出でくる
月の鮫川 夜霧にぬれて
下る小舟に 聞く太鼓
原野野趣と氣品のある新唄
詞を懸賞募集中であつたが二等 平町 鈴木美津二五、伸る / 一 磐城の植
田 樺太鼓の音高く
様な手拭 夜風になびく
娘植田か 聲のよき
六、揃ひ浴衣で 見に来た
人目忍んで 踊りし昔
今日や手をとり 踊る仲七、今年しや万作 穂に穂

赤井の晝火事
きのふ三棟を焼く
三十日午前十一時半頃赤井村高萩川物置
から晝火、母家、物置、風呂場の三棟が焼けて一時
頃鐘火した、損害二百五十圓、原因は同居人増田
西松(四)が餅搗きした取灰の不始末から

一生の不覺だ
高飛びに失敗して
捕れた青年泥濘語
以上三年の刑を言渡され
て盛岡少年刑務所を今年
八日同僚所世所所から

三井タケシ
電話六八五番
(小名郡調製所)
日五、〇八、月山後五、三、八
日六、二、四、月山後四、二、九
日六、二、四、月山後四、二、九
日六、二、四、月山後四、二、九

残暑御見舞
山崎 登
山崎 欽次
山崎 金成
山崎 鈴木
山崎 佐忠
山崎 竹松
山崎 市造
山崎 重三郎
山崎 山藏之助
山崎 山喜一郎
山崎 邊國之助
山崎 渡邊
山崎 赤津
山崎 平男

不起訴處分
下手人兩名は喚問
山田信用組合長 下山田喜一郎
植田町助役 渡邊國之助
植田町収入役 村松義節
植田町農會技手 赤津平男

酒店員入用
二名(自轉車に乗る)
二名(自轉車に乗る)
二名(自轉車に乗る)
二名(自轉車に乗る)

天候
小名
小名
小名
小名

赤井の晝火事
きのふ三棟を焼く
三十日午前十一時半頃赤井村高萩川物置
から晝火、母家、物置、風呂場の三棟が焼けて一時
頃鐘火した、損害二百五十圓、原因は同居人増田
西松(四)が餅搗きした取灰の不始末から

一生の不覺だ
高飛びに失敗して
捕れた青年泥濘語
以上三年の刑を言渡され
て盛岡少年刑務所を今年
八日同僚所世所所から

三井タケシ
電話六八五番
(小名郡調製所)
日五、〇八、月山後五、三、八
日六、二、四、月山後四、二、九
日六、二、四、月山後四、二、九
日六、二、四、月山後四、二、九

残暑御見舞
山崎 登
山崎 欽次
山崎 金成
山崎 鈴木
山崎 佐忠
山崎 竹松
山崎 市造
山崎 重三郎
山崎 山藏之助
山崎 山喜一郎
山崎 邊國之助
山崎 渡邊
山崎 赤津
山崎 平男

不起訴處分
下手人兩名は喚問
山田信用組合長 下山田喜一郎
植田町助役 渡邊國之助
植田町収入役 村松義節
植田町農會技手 赤津平男

酒店員入用
二名(自轉車に乗る)
二名(自轉車に乗る)
二名(自轉車に乗る)
二名(自轉車に乗る)

天候
小名
小名
小名
小名

赤井の晝火事
きのふ三棟を焼く
三十日午前十一時半頃赤井村高萩川物置
から晝火、母家、物置、風呂場の三棟が焼けて一時
頃鐘火した、損害二百五十圓、原因は同居人増田
西松(四)が餅搗きした取灰の不始末から

赤井の晝火事
きのふ三棟を焼く
三十日午前十一時半頃赤井村高萩川物置
から晝火、母家、物置、風呂場の三棟が焼けて一時
頃鐘火した、損害二百五十圓、原因は同居人増田
西松(四)が餅搗きした取灰の不始末から

一生の不覺だ
高飛びに失敗して
捕れた青年泥濘語
以上三年の刑を言渡され
て盛岡少年刑務所を今年
八日同僚所世所所から

三井タケシ
電話六八五番
(小名郡調製所)
日五、〇八、月山後五、三、八
日六、二、四、月山後四、二、九
日六、二、四、月山後四、二、九
日六、二、四、月山後四、二、九

残暑御見舞
山崎 登
山崎 欽次
山崎 金成
山崎 鈴木
山崎 佐忠
山崎 竹松
山崎 市造
山崎 重三郎
山崎 山藏之助
山崎 山喜一郎
山崎 邊國之助
山崎 渡邊
山崎 赤津
山崎 平男

不起訴處分
下手人兩名は喚問
山田信用組合長 下山田喜一郎
植田町助役 渡邊國之助
植田町収入役 村松義節
植田町農會技手 赤津平男

酒店員入用
二名(自轉車に乗る)
二名(自轉車に乗る)
二名(自轉車に乗る)
二名(自轉車に乗る)

天候
小名
小名
小名
小名

赤井の晝火事
きのふ三棟を焼く
三十日午前十一時半頃赤井村高萩川物置
から晝火、母家、物置、風呂場の三棟が焼けて一時
頃鐘火した、損害二百五十圓、原因は同居人増田
西松(四)が餅搗きした取灰の不始末から